

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	172000523		
法人名	株式会社アイリスマーク		
事業所名	ふれあい～朝里 1階		
所在地	小樽市新光1丁目2番20号		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	平成26年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様同士のコミュニケーションが盛んです。
職員もその中に混ざり、皆様が仲良く楽しく過ごせるよう努めています。
日々の会話を大切に、家族のようなふれあいの場を作っていくのが目標です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000523-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 12 月 13 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホーム理念の根底をなす「ふれあい」を原点としたサービスが至る所に活かされ、温かな雰囲気を生み出しています。また、利用者を温かく包み込むタクティールケア(精神的な寄り添いの支援)がしっかりと職員の身に付いており、支援に活かされています。家族の関心も高く、今回の家族アンケートでも27人中24人も家族から回答が寄せられており、2ヵ月毎に開催の家族会の出席の多さと相まって、家族と職員が共に利用者を支え合おうとする気運が感じられます。さらに、職員間のコミュニケーションも良く、先輩のよき指導と本人のスキル向上にむけた意欲がホーム全体の質の向上をもたらしています。法人が勧める1年に1回の5～7日のまとまった長期有給休暇は、職員一人ひとりのリフレッシュと仲間意識の醸成につながっています。このホームの宝である利用者の高らかな笑い声が更なるサービスの質の向上につながるよう継続を祈りたいと思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念をつくり職員が常に名札と併せて持ち歩き確認できるようにしている。	利用者の気持ちに向き合い、寄り添いながら、共に暮らしを豊かなものにしようとする理念は、職員の弛まない努力によりホーム全体に生かされており、穏やかな雰囲気を生み出しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には常日頃から挨拶したり、地域主催のイベントにスタッフとして参加し交流するよう努めている。	地域と共に豊かな暮らしを継続するため、積極的に地域交流を行っています。地域で作る「まちづくりの会」に参加交流し、地域の一員としてつながりの拡大に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度発行しているお便りにコラムとして掲載しホーム玄関に貼りいつでも読んでいただけるよう工夫している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防の方等々、外部の方に出席していただき入居者様やサービスの状況を報告し話し合いサービス向上に活かすようにしている。	「家族会」も合わせた運営推進会議の開催により、多くの家族の出席のもと、詳細なホーム運営報告や活発な意見交換が議事録から覗えます。毎回、消防団の方々、食材会社の方々をゲストに迎えて話題を提供するなど、ユニークな会議の運営が眼を惹きます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただきホームの状況をスライド等を交えて伝え協力関係を築くようにしている。	市の担当窓口とは、介護保険に関わる適切な指導や意見交換が行われ、ホーム運営に役立てています。今後は外部評価を中心としたホーム運営の質の向上に資する協働化も考えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設けている。また、ミーティング時に話し合うよう勤めている。また必要に応じて都度話し合うようにしている。	職員の全ては、身体拘束がもたらす弊害を十分に理解しながら利用者と接しています。事故防止委員会では機会あるごとに話し合いを持ちながら、見過ごしも含めた身体拘束の防止に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設け、虐待にあたる態度や言葉づかい等の発信をし、職員が理解を深め防止できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	委員会が中心となりミーティング時等に情報を発信している。日頃より後見センターと連絡を取り必要な方には活用していただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族と面談し説明を行い理解、納得を得るようにしている。解約時も同様である。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会に参加して頂き、意見要望をうかがうようにしている。また、来訪時にも気軽にお話して頂けるよう努め、ミーティング時等に皆で話し合っている。	家族会には多数の家族の出席を得て2ヵ月毎に開催され、意見交換が行われています。また、家族の訪問時には職員は情報の提供と共に要望・意見などを伺っています。これらの記録等には、申し送りなどを活用して全員で共有し、ホームの運営に反映するよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月責任者会議、フロアミーティングを開き、意見、提案を出す機会を作っている。朝の申し送り時等にも個々に意見を述べられるようにしている。	日常の職員間のコミュニケーションの良さは、忌憚のない意見が飛び交う環境を生み出しています。申し送りの中での些細な意見や情報の共有、毎月のフロアミーティング、管理者及びフロア長などで構成される責任者会議において日ごろの意見などが話し合われて、運営への反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回交替で全職員が有給休暇を数日間連続取得できるようにしている。パートから準社員、正社員への登用を経験、資格等を考慮して実行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交替で外部の研修を受けられるよう外部の研修を受けられるよう機会を設けている。また、社内研修も年に数回実施してレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し研修を受けたり月に一度の相互訪問等を通じ職員が視野を広める機会を作りサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と面談しよくお話を聞いて馴染みの関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人はもちろんご家族とも面談し心配事や要望等を詳しく伺うようにして信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いを聞くことにより必要としているサービスを見極め、時には他のサービスの情報提供を行なうこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食器拭き、新聞折り等々、その方のADLに応じて可能なお手伝いをお願いしたり、一緒に行なうようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一ヶ月に一度職員がお手紙で生活の様子や体調をお知らせしている。また必要に応じて都度連絡を取り合い、共に支えていけるよう協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が気軽に来訪して頂けるよう努めている。本人の希望に応じて電話で連絡がとれるよう支援している。	職員は、利用者の環境やこれまでの暮らしを掌握しながら、慣れ親しんできた関係への継続を支援しています。友人、知人、かかりつけの医師並びに美容院など本人の希望や家族の情報を元に、暮らしが豊かなものとなるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様同士関わりあえるよう会話を取り持ったり、また諍いが起きたときには大事にならないよう仲裁に入ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族から連絡があったりお会いした時は近況を伺って可能な限り支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や態度等から思いの把握に努めている。	職員は利用者との睦ましい話し合いの中から、本人自身の思いや意見を引き出して支援に繋げています。また、表情や仕草からの汲み取り、家族からの情報を元に利用者本意の支援が行われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に色々な情報を集めたりご本人との何気ない会話等からも一人一人のことを把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り時一人一人の体調や心身の状態を確認し対応できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロアミーティングでカンファレンスを行ったり、ご本人やご家族の話を参考に計画を作成している。	職員は介護計画の目指すところをしっかりと把握しながら、日々のケース記録、申し送り、業務日誌などの記載に反映しています。計画作成者はそれら情報を基本とした計画の見直しと共に、家族とも連携して利用者にとって最良の計画作りが継続されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日24時間ケアプランに沿った記録を残している。またケアプラン以外の事も特記事項に記入し全職員が確認しケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人との会話や、ご家族の来訪時に伺ったお話からニーズの把握に努め、支援できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の行事(雪あかりやお祭り等)に参加し友好関係を築き楽しく暮らして頂けるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についてお話を聞き、できる限りご本人やご家族の意向に沿うようにしている。時にはご家族に受診の付き添いをお願いすることもある。	以前から続くかかりつけ医の受診は、利用者及び家族の意向を大切に継続受診が行われています。また、ホームの協力医療機関への移行希望も多く、定期的な検診も行われて家族からも安心の声も聞かれます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回の訪問診療の際に情報を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はフェイスシートを渡したり入院中も来訪し病院職員と情報交換しできる限り早く退院できるよう努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い時期から医師、ご家族と話し合う場を設けホームで出来る事を説明し理解して頂き方針を共有するよう努めている。	現在のところ看取りケアは行われていませんが、将来的には家族などのニーズも踏まえて対応を考えています。重度化した場合はホームの方針に基づき医師、家族、管理者等を加えた検討を重ねながら、最良の方策を検討することとしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命講習を受けている。また急変時の対応マニュアルを貼り出しすぐ確認できるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の方や地域の方に協力して頂き年二回総合避難訓練を実施している。また月一回夜間を想定した避難訓練を実施している。	近隣の住民や消防署職員が参加して年2回の避難訓練が行われています。また、ホームでは毎月、夜間を想定した独自の避難訓練を実施しています。このように、職員数の限られた中で火災の発生場所や利用者の状況などに変化を加えて、幾つかのシミュレーションによる訓練が行われています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ちゃんづけで呼ばない。気になる言葉かけがある時は職員同士で注意し合っている。	利用者への接し方は、いかなる場面でもプライバシーの確保と利用者の人格に配慮しつつ支援しています。通常言葉かけに加えて、トイレへの誘導や入浴支援では特に気配りをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ一人一人に合わせた対応を心掛け、希望を表したり自己決定できるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や態度を見てその方らしく過ごせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の髭剃り介助やその方の好みに合った衣類を選んでいただくよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は必ず職員が間に座り会話を取り持ち楽しんでいただけるようにしている。ADLに応じてテーブル拭き、食器拭き等手伝ってもらっている。	食材をいかに美味しく調理するかを、日々職員は考え献立し調理しています。利用者と職員が共に食べる食事の光景は、笑いに満ちて楽しいひと時となっています。利用者の好みを反映させた献立や食欲を増す色どり及び、味付けが上手に活かされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた量を把握し食べやすい大きさに切る等している。必要な方には水分量を記録し一日を通して確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗浄剤は毎日使用していただき、起床時と夕食後その他必要に応じて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄していただけるよう必要な方には時間を見て声掛け、誘導をしている。	認知症のレベルが高まっている現状の中で、できる限りトイレでの自立した排泄への支援が行われています。排泄パターンの把握に始まり、それとない声かけや誘導がプライバシーに配慮しつつ行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のサイクルを把握しトイレ誘導したり、毎日のラジオ体操で体を動かしていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の際にはご本人に伝え意思を確認している。拒否がある時は無理強いをしないようにしている。	2～3人もの入浴が可能な浴槽と洗い場のある広い浴室で、利用者の楽しい入浴が行われています。体調の不調などで入浴を拒む場合もありますが、最低、週2回の入浴を楽しんでもらおうとの職員の気配りが覗えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけおきていただいているがその方の希望や状態によって居室にて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんをファイルに保管しいつでも確認できるようにしている。体調の変化には気を配り情報はフロア一誌にて共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできることをお手伝いしていただいたり好みのテレビ番組の選択やほのぼのの会が中心となりレクリエーションを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お天気のいい日は散歩をしたり、希望を伺い可能であれば職員が対応している。そうでない時はご家族に連絡して協力を仰いでいる。	日常生活動作（ADL）の低下と共に、外出の回数は減ってきていますが、好天時の散歩やホーム前に設えたベンチなどでの外気浴で、利用者の閉じこもりの防止とストレスの解消に努めています。また、家族の協力を得たドライブや地域のイベント見物など外出の機会が多くなるよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力のもと居室にお金を保管されている方もいる。外出された際使われている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればいつでも電話でお話できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔を心掛けている。季節の行事にあわせた飾り等で季節感を取り入れるよう工夫している。	利用者が寛ぎ集うリビング兼食堂、廊下、浴室及びユニット毎の3ヵ所のトイレなど全てがゆったりと広く、利用者の安心と安全が守られています。利用者が参加して作り上げた壁掛けの作品、笑い顔溢れる写真の掲載及び利用者の書が和やかな雰囲気をもっと増大させています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き皆さんとテレビを見たり、また気の合った方とお話したりできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたタンスや飾り物などを置かれ気持ちよく過ごしていただけるようにしている。仏壇を置かれている方もいらっしゃる。	居室は利用者により若干の差異はあるものの、馴染みの家具や調度品が持ち込まれ、心地よい暮らしの継続が可能な空間となっています。居室前には「メモリアルボックス」が設えられ、利用者それぞれの思いが込められ、足を止め思わず眼が奪われるた温かなスペースとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や車イスの使用の妨げにならないようフロアの家具の配置に気を配り安全に過ごしていただけるようにしている。		